

# 教員の受賞・研究成果

本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。<2021年11月～2022年10月>  
教員の身分は、記事掲載時の情報です。

## 元法学部教授、元・研究開発機構 機構教授 猪口孝 世界世論調査研究学会からヘレン・ディナマン賞を受賞

猪口孝(在職:2005～2009年)元・法学部教授、元・研究開発機構 機構教授が、2021年に世界世論調査研究学会 World Association for Public Opinion Research WAPOからヘレン・ディナマン賞 The Helen Dienerman Awardを受賞されました。同賞は、世論調査とその分析を科学的に進める研究に対して贈られる賞で、過去には、統計学、心理学、社会心理学、社会学、政治学などの分野で国際的な業績を上げた研究者が受賞されています。

## 理工学部教授 小松晃之 小松研のタンパク質がドラゴン補給船(米国SpaceX社) で国際宇宙ステーションに打ち上げられました

理工学部教授(応用化学科)小松晃之は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同で「宇宙空間における高品質タンパク質結晶生成実験」を実施しています。2021年12月21日19時7分(日本時間)、理工学研究科 修士2年 高田諒也さんが合成したヘモグロビン変異体が、米国フロリダ州ケネディ宇宙センターから米国SpaceX社のドラゴン補給船(SpX-24)で国際宇宙ステーション(ISS)へ打ち上げられました。12月23日より「きぼう」日本実験棟で軌道上実験が開始されています。

## 理工学部教授 中村太郎 精密工学会「精密工学会誌インパクト賞」を受賞

理工学部教授(精密機械工学科)中村太郎が精密工学会「精密工学会誌インパクト賞」を受賞しました。精密工学会誌インパクト賞は、「精密工学会誌の記事・論文の中で、年間のインターネットアクセス数の多かった記事・論文に対し、その功績に報いることを目的として贈賞する」というものです。  
記事名：もう一度復習したい寸法公差・はめあい  
掲載：精密工学会誌 71巻3号(2005年3月号)

## 理工学部教授 國井康晴 「ムーンショット型研究開発事業」のPMに採択されました

理工学部教授(電機電子情報通信工学科)國井康晴が、内閣府の推進する「ムーンショット型研究開発事業」プロジェクトマネージャー(PM)に採択されました。「ムーンショット型研究開発事業」は、わが国初の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発(ムーンショット)を推進する事業です。國井教授は、知能ロボット、特に宇宙技術分野の数少ないエキスパートであり、特に月惑星探査に関する技術の研究開発に取り組んできました。最近では、月面着陸実験機SLIMに搭載される小型移動ロボットの実機開発等にも携わっています。今回、ムーンショット目標2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現に向けて、課題推進者とともに「宇宙を活動の場とした拠点構築のためのAIロボット技術の研究開発」プロジェクトを推進していきます。  
研究開発プロジェクト名：進化型群知能による確率的空間認識と協調建築作業

## 理工学部教授 後藤順哉、藤田岳彦 日本応用数学会論文賞を受賞しました

理工学部経営システム工学専攻博士課程2021年修了の東出卓朗さん、同専攻修士課程2020年修了の浅井謙輔さん(共に藤田研究室、現在中央大学理工学部共同研究員)、および理工学部教授(ビジネスデータサイエンス学科)後藤順哉、藤田岳彦の共著論文が、日本応用数学会の「論文賞 応用部門」を受賞しました。  
受賞論文：  
初到達時間を用いたペアポートフォリオ最適化問題の新定式化  
(日本応用数学会論文誌、30巻3号(2020)、pp.194-225.)

## 理工学部教授 新妻 実保子 科学技術振興機構(JST)の推進する「未来社会創造事業」 に採択されました

理工学部教授(精密機械工学科)新妻実保子の提案が、科学技術振興機構(JST)の推進する「未来社会創造事業」に採択されました。「未来社会創造事業」は、社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲットを目指す技術的にチャレンジングな目標を設定し、POC(概念実証：実用化が可能かどうか見極められる段階)を目指した研究開発を実施する事業です。同事業は異なる2つのアプローチ「探索加速型」と「大規模プロジェクト型」で構成され、新妻教授は「探索加速型」に採択されました。なお、本事業には221件の申請があり、26件が採択されました。新妻教授の採択された研究課題は下記のとおりです。  
未来社会創造事業 探索加速型「個人に最適化された社会の実現」領域  
研究開発課題名：  
「親子相互交流療法を活用した親子のウェルビーイング実現技術」

## 理工学部教授 森寛敏、助教 黒木菜保子 NEDO「グリーンイノベーション基金事業/ CO2の分離回収等技術開発プロジェクト」に採択されました

2050年にカーボンニュートラルを実現するシナリオにおいて、CO2回収量は全世界で80億トンに上ると試算されています。低圧・低濃度でCO2を回収するには、分離回収に要するエネルギーの抜本的な削減が必要です。一方、輸送機器の全面的な電化や各種燃料の急激な脱炭素化は、実現困難な社会インフラの変革を要求します。そこで、中期的には、脱炭素化への移行過程として、低炭素化石燃料LNGの需要が高まる見通しです。今回、中央大学理工学部応用化学科・理論化学研究室(森寛敏教授グループ)では、これまでに培ってきた「電子状態インフォマティクス技術」を核とし、CO2吸収液の迅速探索および特性評価試験に取り組みます。  
採択テーマ：LNG未利用冷熱を活用したCO2分離回収技術開発・実証  
事業期間：2022年度～2030年度

## 理工学部教授 西岡英俊 国際会議 GEOMATE 2021において 「Best Paper Award」を受賞

国際会議 GEOMATE 2021(2021年11月3日～5日)において、佐々木優奈さん(都市・人間環境学専攻、西岡研修1年)と理工学部教授(都市環境学科)西岡英俊の連名論文が、「Best Paper Award」を受賞しました。  
受賞論文タイトル：  
VERTICAL LOADING TESTS ON LOCAL SCOURED SPREAD FOUNDATION ON ALUMINUM RODS MODEL GROUND (アルミ積層模型地盤における局所洗掘を受けた直接基礎鉛直載荷実験)  
国際会議概要：  
GEOMATE 2021 (The 11th International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment)



## 教員の受賞・研究成果

本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。<2021年11月～2022年10月>  
教員の身分は、記事掲載時の情報です。

### 理工学部教授 手計太一、研究開発機構 機構准教授 後藤岳久 国土交通省河川砂防技術研究開発公募に採択されました

令和4年度国土交通省河川砂防技術研究開発公募に理工学部教授(都市環境学科)手計太一・研究開発機構 機構准教授 後藤岳久のテーマが採択されました。  
<https://www.mlit.go.jp/river/gijutsu/kasenryuiki/theme.html>

【指定型課題：流出抑制対策の治水効果を推定できる流出解析・洪水解析技術に関する研究開発】

水田圃場施設を利用した新しい洪水導水方法の提案と流域治水実証実験

理工学部教授 手計太一

【提案型課題(地域課題)】

掃流砂と浮遊砂の一体的扱いに基づく新たな浮遊砂の解析法の開発とそれを用いた安定な船底形河道の設計技術に関する研究

研究開発機構 機構准教授 後藤岳久

### 理工学部助教 福田悟志 情報処理学会2021年度山下記念研究賞を受賞

理工学部助教(ビジネスデータサイエンス学科)福田悟志が、情報処理学会2021年度山下記念研究賞(情報環境領域)を受賞しました。本賞は、情報処理学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうち、特に優秀な論文に対して贈られるものです。

なお、2022年3月3日～5日に開催された第84回全国大会で授賞式が開催されました(ハイブリッドにて開催)。

受賞論文：網羅性を重視した学術論文に対する検索手法

(第139回IFAT 研究発表会「第139回情報基礎とアクセス技術研究発表会」

2021年7月31日オンライン開催)

### 理工学部助教 小島朋久 2021年度日本機械学会奨励賞(研究)を受賞

理工学部助教(精密機械工学科)小島朋久が2021年度日本機械学会奨励賞(研究)を受賞しました。

授賞式は2022年4月21日(木)に明治記念館(東京都港区)にて執り行われました。日本機械学会賞は一般社団法人日本機械学会により日本の機械工学・工業の発展を奨励することを目的として1958年に設けられ、毎年優秀な論文や技術などが表彰されています。

### 理工学部助教 小島朋久 日本実験力学会学術奨励賞を受賞

理工学部助教(精密機械工学科)小島朋久が2022年度日本実験力学会学術奨励賞を受賞しました。

この賞は実験力学分野における優秀な学術あるいは技術業績を挙げ、将来の成長が期待される満35歳未満の研究者に贈られる賞です。

受賞内容：PIV法とデジタル画像相関法を応用したゲルの内部ひずみ測定法

### 文学部教授 高瀬堅吉

#### 参画する研究プロジェクトがJST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)共創分野本格型に採択されました

横浜市立大学医学群准教授 宮崎智之をプロジェクトリーダーとし、本学文学部教授 高瀬堅吉が参画している研究グループが、国立研究開発法人科学技術振興機構(以下JST)が公募する令和4年度「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」共創分野本格型に採択されました。

1. プロジェクト名称

若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点

2. 拠点の実施概要

生きづらさを感じる若者の心の課題を包括的に研究する新たな学術領域を立ち上げ、得られる知見を基に心理的レジリエンスの獲得促すコンテンツ(デジタルメディア)を提供するメタパースプラットフォーム(本拠点では「メタケアシティ」と定義)を構築し、そこに日本国内の生きづらさを感じる若者を集め、医師や企業などと連携し若者がレジリエンスを持つ未来を目指す。

### 総合政策学部教授 平野廣和 空気調和・衛生工学会の学会賞論文賞(論説・報文部門)を受賞

総合政策学部教授 平野廣和が空気調和・衛生工学会にて令和3年度(2021年度)「学会賞論文賞(論説・報文部門)」を受賞しました。

タイトル：最近の貯水槽地震被害の特徴とスロッシング・バルジングの影響：巨大自然災害に備えた貯水槽の耐震設計のあり方

掲載誌：『空気調和・衛生工学会』2019年1月号

### 総合政策学部准教授 李里花 2021年度アジア歴史研究助成を受賞

JFE21世紀財団の2021年度アジア歴史研究助成募集において、総合政策学部准教授 李里花が選出されました。

助成の対象となる研究は「21世紀アジアと共存共栄するための、日本の産業と文化のVision構築に資するアジア歴史研究」です。歴史的経緯を踏まえながら現状を直視し、未来を考える研究を対象としています。また、アジア各地域と日本の関係についての歴史と記憶の研究も含まれます。

李里花の研究テーマは「チマチョゴリのイメージをめぐる日韓の歴史一支配から連帯へ」で、研究期間は1年間です。この研究はJFE21世紀財団において助成研究報告書の発行、およびHPでも公開されます。

総合政策学部准教授 李里花の専門分野は歴史社会学、移民研究、環太平洋地域研究、コリアン・ディアスポラ研究です。



贈呈式の様子  
梅村坦総合政策学部名誉教授と李里花准教授

### 国際情報学部准教授 吉田雅裕 IEEE IoTAT2021でBest Paper Awardを受賞

国際情報学部准教授 吉田雅裕の専門分野はIoT・AIです。このたび、吉田がIEEE IoTAT2021でBest Paper Awardを受賞しました。IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)は、電気・電子通信、情報工学等の技術革新への貢献を目指す組織で世界160カ国、40万人以上の会員を擁しています。そのIEEEが開催する国際ワークショップ「International Workshop on Internet of Things: Networking Applications and Technologies(IoTAT)」では、IoTの幅広い領域に関する独創的なアイデアを共有することで、本分野の更なる発展に貢献することを目指しています。吉田は、IoTAT2021において「EdgeRE: An Edge Computing-enhanced Network Redundancy Elimination Service for Connected Cars」を共同発表し、Best Paper Awardの受賞に至りました。

本発表では、自動運転車と5Gを連携させた「コネクテッドカー」において、コネクテッドカーのエンジンやブレーキなどのデータを効率よく収集するための「エッジ圧縮技術」の研究成果をまとめています。本研究成果は、総務省と日本電信電話株式会社との共同研究によるものです。



国際情報学部 吉田雅裕准教授

### 研究開発機構 機構教授 池田富樹 第54回市村賞 市村学術賞を受賞

研究開発機構 機構教授 池田富樹が、第54回市村賞 市村学術賞を受賞しました。本賞は、科学技術の進歩に関わる顕著な成果をあげ、学術分野の進展に多大な貢献を収めた者に対し授与されます。池田は「光駆動高分子アクチュエーターの開発」における業績が評価され、貢献賞を受賞しました。